

岡崎市  
友好都市  
交流史  
Friendship  
City

30th  
*Anniversary*



昭君博物院

岡崎市・呼和浩特市（中国内モンゴル自治区）  
友好都市提携 30 周年記念誌

# CONTENTS

友好都市提携のいきさつ	2
フ フ ホ ト 呼和浩特市の紹介	3
呼和浩特市公式使節団・市民団 岡崎市訪問	6
岡崎市使節団 呼和浩特市訪問	8
提携30周年記念品	11
交流の軌跡	12
★呼和浩特豆知識★	18



# 友好都市提携のいきさつ



## 提携年月日

1987年(昭和62年)8月10日

## 人口

3,060,000人

## 面積

17,224 km<sup>2</sup>



## いきさつ

1985年(昭和60年)3月、来日の張啓生・呼和浩特市長が岡崎を訪問し、同年11月にアジアロバ2頭の寄贈を受けたことがきっかけで、呼和浩特市と岡崎市の交流が始まりました。翌年4月に、賈才・呼和浩特市長が岡崎を訪問し、友好都市提携の要望を受けました。その後、市民代表による日中友好交流提携委員会が設置され、友好都市提携推進の答申が行われました。

1987年(昭和62年)8月10日、友好都市提携調印使節団19名が呼和浩特市を訪問し、呼和浩特市人民政府会議室において正式に友好都市提携の調印が行われました。

提携を記念して岡崎市から石彫「仲よしの像」を呼和浩特市に贈呈しました。

## 友好都市提携文書



# 呼和浩特市の紹介



## 人口

人口は約306万人で、その大部分が漢民族です。蒙古族や回族、満州族、朝鮮族など42の民族があり、少数民族の人口は、呼和浩特市全体の約10パーセントにあたる30万人です。大自然の中で、それぞれの民族が特色ある生活様式、思想、文化、習慣を形作っています。蒙古族の民族音楽と舞踊は世界文化芸術として注目されています。

## 自然環境と気候

呼和浩特市は陰山脈の大青山南麓、黄河北岸の土默川平原上に位置し、市郊外の北部には大草原が広がっています。そこには、羊や馬が放牧されており、蒙古族の移動式テント「パオ」が観光客の人気を呼んでいます。

内陸地区は温帯、西北地区は大陸性気候に属しており、昼夜の温度差は大きく、また、四季がはっきりと分かれています。春は乾燥した風が吹き、夏はあまり雨が降らず、期間も短いです。秋はだんだんと寒くなり、霜が降り、冬は気温がぐっと下がり、期間も長いです。

四季がはっきりと分かれている呼和浩特市ですが、このまちを旅行するなら夏がお薦めだと言われています。夏になると大草原に緑の草木が生い茂り、色とりどりの花が咲き誇り、牛や馬、羊が草原のいたるところに群れをなしています。高山や大河、森林、草原、砂漠、湖沼があり、美しい風景を楽しむことができます。

## 呼和浩特市とは…

呼和浩特市は、中国にある都市の1つで、北京の西北西500kmに位置し、列車で13時間（飛行機で1時間）のところにあります。モンゴルとロシアと国境を接しており、面積は約17,000km<sup>2</sup>です。市内には、多くの学校（特に公立高校や国立大学）、芸術実演団体、文化会館、図書館、博物館、ラジオ・テレビ局、運動場、体育館、プールなどがあり、内蒙自治区の省都として政治、経済、教育、文化の中心都市となっています。

「呼和浩特」とはモンゴル語で「青い城」を意味していますが、それは、都市全体が緑に覆われていることが由来だと言われています。呼和浩特市は、山や川、草原など、自然環境が整っており、「森林都市」と評されています。



## 観光スポット

呼和浩特市内には歴史的文化遺産が数多く残されています。戦国時代に建てられた趙長城、中国四大美人の1人に数えられる王昭君の博物院、万部華嚴經塔、モンゴル語が刻まれた世界に1つしかない天文図を記した金剛座舍利宝塔（五塔寺）などがあります。また、仏教建築の基となった席勒図召、大召寺、白塔など多くの名所旧跡があります。

## 歴史的背景

何千何万の羊の群れを連れ、大草原を大移動するモンゴルの遊牧民たち。ひとたび戦いとなれば、馬にまたがり、蒙古刀を振りかざし、遙か彼方にあるヨーロッパまで勇敢に駆けていったモンゴルの騎士たちは、移動しながら必要に応じて国を造り、都を建て、歴史の流れと共に旅をしていました。

1575年（明の時代）にモンゴル族の首領アルタン・ハンが建てたと言われている「帰化城」と1735年（清の時代）に辺境防備と西北地区統治のために建てられた「綏遠城」が1945年に合併して、現在の呼和浩特市となりました。

## 胡服騎射の発祥地

「胡服騎射」とは中国の騎士の有名な戦術です。この戦術はもともと呼和浩特で生まれました。「胡服」とは遊牧民が乗馬をするときに着用する服のことを指し、「騎射」とは馬に乗って弓を射ることを言います。中国北方、呼和浩特の伝統的な戦術は、中国の戦国時代の趙の君主、武靈王が採り入れ、趙を軍事大国にしたことでも有名です。



## 中国四大美人の嫁ぎ先

中国四大美人とは、中国の歴史上最も美しいとされた四人の女性のことを言います。春秋時代の西施、漢の王昭君、後漢の貂蝉、唐の楊貴妃がその4人とされています。

呼和浩特市は、その中国四大美人の1人である王昭君の嫁ぎ先として知られています。中国の歴史の中では、中央勢力と周辺の少数民族との間で戦いや紛争が絶えませんでした。その争いを避けるために政略結婚という手段を用いることが多々ありました。

前漢の元帝の時代には、現在の呼和浩特市がある地域に匈奴という国が勢力を持ち始めており、戦いも頻繁に起きていました。その時に、政略結婚をさせられたのが漢民族の王昭君でした。彼女は、匈奴で生涯を過ごしましたが、彼女が漢民族の文化を匈奴に伝え、両民族の交流に貢献したことで、長く平和が続いたと言われています。呼和浩特市には、王昭君の博物院があり、観光スポットとして注目を集めています。

また、「昭君文化祭」という王昭君の歴史を記念するために、1998年から毎年夏ごろ開催されている大きなイベントがあります。この祭りは中国で最も有名な祭りの1つとされており、経済貿易、飲食業、商業、観光業、文化交流などの第3次産業を発展させるきっかけとなっています。

さらに、日本国内にも王昭君に因んだ場所があります。それは、熊本城の「昭君之間」という部屋です。その部屋の襖や壁には彼女の一生が物語として描かれています。この「昭君之間」という部屋の名前には、「将军之間」という意味が込められているのではないかと言われています。



## 「幸せな都市」

呼和浩特市は、中国において最も幸福な都市の1つである「十大幸福都市」、また、最も美しい都市の1つである「十大美麗都市」と評されています。

呼和浩特市が最も幸せな都市として評されている理由として、「家族の絆を感じられる場所」であることが挙げられています。呼和浩特市では「人と人との繋がり」がとても大切にされています。他都市だとなかなか上手くはいかない嫁と姑の仲も、呼和浩特市では良い関係を築くことができている家庭が多いとも言われています。呼和浩特市に行ってみると、「家族の温かさ」や「人の温かさ」を感じ取ることができるかもしれません。

次に理由として挙げられているのが、「政治的関心の高さ」です。市民一人ひとりが自分のまちのことをよく考え、今より良いまちにしていくという気持ちを持っていることが分かります。

最後に挙げられる理由に、「養生（身体の状態を整えること・健康を増進すること）についての関心の高さ」があります。呼和浩特の人々には、健康について関心を持っている人が他都市よりも比較的多いと言われています。呼和浩特市には、「蒙牛」と「伊利」という中国の二大牛乳ブランドの本社があり、乳製品の製造が有名です。「中国の乳都」とも呼ばれています。呼和浩特市民の5分の1にあたる、約60万人の市民が乳製品の製造に携わる仕事をしています。この牛乳が呼和浩特市民の健康の秘訣になっているかもしれません。

呼和浩特市は、「南は穀物、北は牧畜、東が森林で、西は鋼鉄、そしていたるところに石炭あり」と言われ、豊富な資源に恵まれています。また、中国における「森林都市」、「開拓模索型都市」、「全国民族団結進歩模範都市」とも言われています。近年、呼和浩特市のGDP成長率が高まってきていますが、経済の豊かさと心の豊かさの両方が伴うと市民の幸福度が高まり、呼和浩特市のような真の幸福都市が生まれるのであります。



## 名物料理

呼和浩特市の名物料理と言えば、やはり、「モンゴル料理」です。蒙古族の民族料理の要素が採り入れられた料理が名物料理となっています。

モンゴル料理には、大きく分けて、「白い食べ物」と「赤い食べ物」という二つの要素があります。モンゴル料理における「白い食べ物」とは、牛や馬、羊の乳から作られる食べ物のことを言います。そして、「赤い食べ物」とは、牛や馬、羊の肉そのもののことやそれらの肉を用いた料理のことを指します。

昔は、「白い食べ物」と「赤い食べ物」の収穫時期が異なっていました。乳をたくさん収穫できるのが夏だったので、夏に「白い食べ物」を食べ、乳をあまり収穫できない冬に、「赤い食べ物」を食べるというように季節ごとに異なる料理を食べていました。

しかし現在は、1年を通して、肉も乳製品も手に入れることができます。また、いつでも野菜を入手できるようになりました。

現在の呼和浩特では、モンゴルの伝統料理に必要不可欠な「白い食べ物」と「赤い食べ物」という二つの要素に、「野菜」という新しい要素が加えられ、もともとの「モンゴル料理」とは少し異なり、アレンジを加えた料理が食べられています。呼和浩特市の食文化や食生活が、少しづつ変化してきていると言われています。

呼和浩特市は、とうもろこし、じゃがいも、ミルクの産地です。これらの材料を使って作られた、ミルク豆腐、ミルクティー、ミルククッキー、ヨーグルト、白いバター、ポテト餡巻がとても有名です。また、馬乳からつくるお酒、「馬乳酒」が特産品です。そして、シウパウロウ（塩茹でした羊の肉を煮て炒めた料理）という手でちぎりながら食べる料理や、烤全羊（羊の丸焼き）、蒙古包子（内モンゴル肉まん）、焼壳、豆面という名物があります。

呼和浩特市副市長を始めとする公式使節団6名と市民団15名が岡崎市を訪問し、4月9日に八丁味噌工場を見学し、家康行列に参加しました。

夜は市内ホテルで歓迎夕食会を開催しました。

### 八丁味噌工場見学



### 家康行列参加



### 歓迎夕食会



## 呼和浩特市公式使節団・市民団 岡崎市訪問

4月10日には、友好都市提携30周年記念写真展「躍進する呼和浩特市」のテープカットを市役所口  
バーで行い、写真展を見学した後、引き続き表敬訪問を行いました。  
その後、市内油製造工場の見学を行いました。

## 呼和浩特写真展テープカット



## 表敬訪問



## 市内油製造工場見学



# 岡崎市使節団 呼和浩特市訪問

30th  
Anniversary

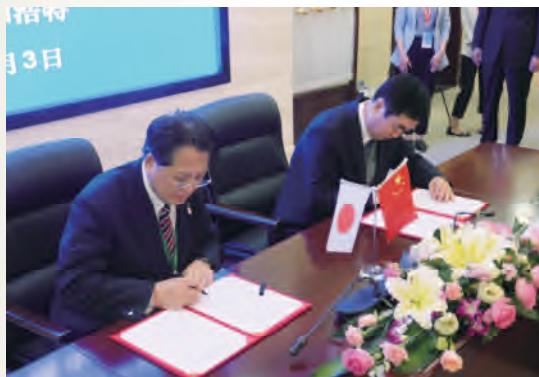
市長を始めとする岡崎市公式使節団10名と市民公募の「友好の翼」27名が、呼和浩特市を訪問しました。表敬訪問では、岡崎市から呼和浩特市に、ひな人形や羽子板などの記念品を贈呈し、両市の友好都市関係と経済・社会の発展のための覚書を締結しました。

また、シルクロード公園で「平和鳩」の石彫像の除幕式を執り行いました。

## 表敬訪問



## 覚書締結



## 「平和鳩」石彫像の除幕式



## 岡崎市使節団 呼和浩特市訪問

歓迎夕食会では、云主任と内田市長の挨拶のあと、ステージ上で民族音楽の盛大なパフォーマンスが行われる一方、モンゴル式乾杯儀式が行われました。

また、青少年活動センターでは、青少年書画作品を交換し、両市の書道家による席上揮毫、併せて両市民による書画と絵画の展示の観覧が行われました。

## 歓迎夕食会



## 書道家による席上揮毫



## 書画と絵画の展示会観覧

